

## 新潟市立工業高等学校卒業生

★佐藤 忠男 文化功労者 1952年、新潟市立工業高等学校卒業 立障

日本の評論家、編集者。日本映画大学名誉学長、日本映画学校校長、日本映画大学映画学部教授、日本映画大学学長などを歴任した。

アジア映画を中心として世界中の知られざる優れた現代映画を発掘・紹介し、映画界全体の発展に寄与した。

新潟市出身。小学校高等科を卒業、海軍の少年飛行兵として終戦を迎えた。

1952年、新潟市立工業高等学校卒業。

戦後に見た米国映画の華やかで楽しげな世界に感動し、新潟市で電電公社などに勤務しながら、映画雑誌への評論の投稿を重ねた。注目されて上京し、雑誌「映画評論」「思想の科学」の編集長を務め評論活動を行う。

1973年から、妻の佐藤久子と共同で個人雑誌『映画史研究』を編集・発行。日本映画学校校長(1996年～2011年)、日本映画大学学長。

1989年、第7回川喜多賞を妻の佐藤久子とともに受賞。1996年、第46回芸術選奨文部大臣賞を受賞、同年春の褒章で紫綬褒章を受章。2002年、春の叙勲で勲四等旭日小綬章を受章。その他に、王冠文化勲章(韓国)、レジオンドヌール勲章シュヴァリエ、芸術文化勲章シュヴァリエ(フランス)等を受章。2019年、文化功労者。2022年死去、91歳。



★三輪 悟 1965年、新潟市立工業高等学校卒業

プロ野球選手

市工では3年次の1963年エースとして、夏の甲子園県予選準決勝に進む。卒業後の1964年に新潟市水道局へ入局し、軟式野球部でプレーを続けた。

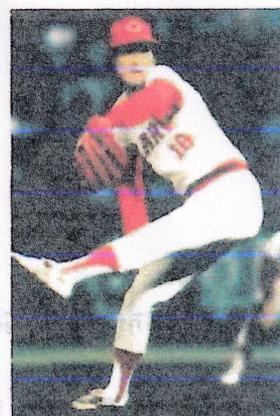
1969年ドラフト2位で西鉄ライオンズに指名され、1970年に入団。

45試合に登板して7勝14敗、リーグ7位の防御率2.91を記録した。

1975年広島東洋カープへ移籍。同年は22回2/3イニング連続無失点のピッチングで、球団史上初のリーグ優勝に貢献。移籍後は全てリリーフで登板し、1980年限りで現役を引退。

引退後は故郷新潟にUターン、地元の特定非営利活動法人「新潟野球人」に参加し、少年野球の指導などを行っていた。

2015年には新潟日報事業社から自叙伝「マウンド人生～絆つむいで」を出版。2021年死去、75歳。



★久仁 京介

社団法人日本作詩家協会副会長、日本音楽著作権協会文化事業委員会委員長、日本音楽著作権協会評議員。

新潟市内野出身、新潟市立工業高校を卒業。

1967年、黒沢明とロス・プリモスの「東京ロマン」で作詞家デビュー。

第48回日本作詩大賞(2015年テレビ東京)にて大賞を受賞した。

渥美二郎「おまえとしあわせに」「北のものがたり」

石川さゆり「好きだから」

五木ひろし「夢の浮き橋」「もう離さない」「燃える秋」「別れの匂い」

北島三郎「狼」「ひとすじ」「忠治流れ旅」「こぼれ紅」

島津亜矢「独楽」(※2015年第48回日本作詩大賞・大賞受賞楽曲)

中村美律子「潮騒」「長良川鶉情」「つづれ織り」

新沼謙治「津軽恋女」

范文雀「あなたが憎めない」

日吉ミミ「男と女のお話」

福田こうへい「南部鱒しぐれ」「峠越え」

藤あや子「雨のものがたり」

森進一「わるいひと」「別れてあげる」「晩秋」

三山ひろし「いごっそ魂」



★三林碩郎、第86代新潟県県会議議長歴任 2019年死去、72歳

★小嶋栄吉、日本労働組合総連合会新潟連合会議議長歴任